

## こどもの病気 「突発性発疹」

突然、高い熱が出ます。熱が高いのに、機嫌もわるくなく、咳や鼻みずなどのかぜの症状はありません。(そうでない場合もあります。)生まれてはじめての熱のことが多く、はじめてのお子さんの場合、お父さん、お母さんはびっくりするでしょう。

- 原因：ヒトヘルペスウイルスの感染によっておこります。潜伏期間は1～2週間です。
- 症状：生後半年から1年くらいにかかりやすく、突然高い熱がでます。熱さましをつかっても下がりにくく、すぐに上がってきます。3～4日たって、熱が下がると、小さい発疹がでます。発疹も3～4日ほどでひいてきます。下痢をすることが多いようです。熱性けいれんをおこすこともあります。
- 治療：症状にあわせてくすりがあります。

(治療については、お医者さんの判断によりちがいます。ここには一般的なものを記載しています。)

- 病院に行くタイミング：高い熱が続くとき、下痢が続くときは受診しましょう。
- いつから学校(保育所)にいったいいい?：発疹がきえたら大丈夫です。
- おうちでできること：
  - 休む・・・家でゆっくりしていきましょう。
  - ごはん・・・特に変更する必要はありませんが、嫌がる場合は、無理に食べさせなくてもかまいません。水分はしっかりととりましょう。
  - お風呂・・・熱がなければ、いつもどおりでかまいません。
  - 温度調節・・・暖めすぎる必要はありません。状況に合わせて、快適な環境を整えてあげましょう。

突発性発疹は、一度しかならないと思っている方も多いかもしれませんが、2度かかることがあります。ウイルスの種類がちがうものです。

## 今回のおはなし 「くすりの種類」

くすりは大まかに、のみぐすり(内服薬)、外用薬と注射薬に分類されます。

内服薬は、飲み込んでから食道、胃、腸へ進んで吸収され、くすりの成分が肝臓を通過して、血液といっしょに全身に運ばれていきます。有効成分が、全身に行き渡るものと、病気のある特定の箇所により多く行くようにできているものがあります。のみぐすりは、多めの水でしっかり飲みこんでください。

外用薬は、ぬりぐすり、はりぐすり、吸入、点眼薬、点耳薬、点鼻薬、坐薬、舌下錠などたくさん種類があります。体の表面からくすりをつけた部分にだけ効くものがほとんどですが、坐薬などのように直腸から吸収されて、全身に運ばれるものもあります。ホクナリンテープや狭心症治療薬のニトロのテープなどは、くすりを貼った部分から有効成分が血液に入っていきます。トローチは口の中に入れて溶かしますが、吸収されるわけではないので、外用薬と分類されます。

注射薬は、重症のときや内服や外用では効果が出せない場合に使います。静脈注射、筋肉注射、皮下注射などがあります。点滴は静脈注射になります。痛いし怖いし、お子さんが病院嫌いになる原因の一つなのでできればさけたいものですが・・・即効性があるので、緊急時には使います。